

**「バンのペア」千里の鳥・万博の鳥 (A4版第42回)**  
**(千里タイムズ2016年3月号原稿)**

冬の冷え込みは続いているものの早春の花ウメが満開となり、鳥の世界も春の生活が始まっている。

さて今月のバン、人目のつきにくい橋の下にペアで休んでおり、春の繁殖期に向けた仲睦まじいツーショット、羨ましくなる光景である。

バンは体長35 cmほど、ハトくらいのクイナ科の鳥、有名なヤンバルクイナの仲間である。オセアニアを除く全世界の熱帯、温帯に広く分布している。

バンは全体に褐色がかかった黒色で、額から嘴にかけての真っ赤な硬い額板と、胴体の側面にある白色の縞模様が目立つ。足は黄緑色で、つけ根にピンク色が見え隠れする。

バンはカモのように足指の間に水かきがないため、水面を泳ぐときの動作は大きい。カモがすいすい泳いでいる横で、懸命に体全体を大きく動かしており、泳いだ後に残る波紋も、カモと違って大きくはっきりしている。

日本では全国の池や河川、休耕田など、水草の茂る水辺でガマ・ヨシなどの茂みの中に、枯草を積み上げた巣を作る。通常バンは一夫一妻であるが、時には一夫多妻のペアがあり、一つの巣に協同産卵し、巣の中に10個以上の卵の山となることもある。

バンの雛は約1カ月後に一人立ちするが、親が2回目の繁殖に入った時などには親の子育を手伝い、自分の弟妹の世話をする、いわゆるヘルパー行動をとる。

バンの漢字名は「鵜(ばん)」、住みついた田んぼから離れないので、田んぼの番人という意で名づけられている。

バンは、万博公園の池や、藤白台ピアノ池、山田西王子池、高町池など、吹田市内の池あちこちにいるので、5～6月ごろバンの子育てを観察することが出来る。

①日本野鳥の会大阪支部主催

**万博公園定例探鳥会(3月)**

ウグイスが法華経の練習に入り、シジュウカラも「ツツピー・ツツピー」と春を歌い始めました。北国へ帰る日が近づいたツグミも渡るた

めの栄養分を蓄えるため、餌探しに懸命である。こんな鳥たちとの出会いを楽しみに、公園内を一巡する予定。

日時 3月12日(土)9:30～15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡・野鳥図鑑

服装 ハイキングと同じ

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円  
他に万博公園入園料250円が必要

②吹田野鳥の会主催

**万博公園平日探鳥会**

早咲きのカンヒザクラがちらほら、ソメイヨシノのつぼみが膨らみ始める頃、鳥たちはエナガが巣材のクモの巣集めなど、繁殖活動を開始している。鳥たちの春を望遠鏡・双眼鏡を使って遠くから観察する予定。

日時 3月22日(火)9:30～12:00

集合 自然文化園中央口

解散 自然文化園内の予定

担当 有賀憲介氏他

持ち物・服装 ①日本野鳥の会探鳥会と同じ  
但し、弁当は自由

参加費 吹田野鳥の会会員無料、非会員200円

\*\*\*\*\* **(写真)** \*\*\*\*\*

種名 バンのペア

撮影年月日 2016年1月28日

撮影場所 万博公園

撮影 有賀憲介